



ほっとほっとタイムズ—第1号—

2024.5.22

井荻小学校 特別支援教育校内委員

5月に入り、陽気の良い季節となりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

入学、進級して早ひと月が過ぎました。4月は、子どもたちにとって楽しみでもあり、不安でもある時期でした。そして、このゴールデンウィーク明けは、1か月の頑張りから疲れが出やすい時期です。(大人でも5月病と言ったりしますよね。)お子様の様子はいかがでしょうか。

入学当初、自分の教室がわからなかった1年生も、今では余裕のある顔で、友達と楽しそうに過ごしている姿を見かけます。入学式の翌日から交代で6年生が朝の支度のお手伝いに来てくれています。お兄さんやお姉さんに甘える姿もたくさん見られ、ほほえましく思っています。廊下で固まっている2年生に声をかけると、「慣れないお友達がたくさんいるから教室に入りにくい」と答えた子もいます。2年生はクラス替えがあった上に担任も変わり、しかも一クラスの人数も増えてなかなか大変です。低学年に限らず、どの学年も新しい友達、新しい担任、新しい学習に緊張しながらも少しずつ慣れて、毎日頑張っています。学校は集団生活の場です。たくさん的人数で安全に生活するには、やはりたくさんルールが必要となります。時には友達と思わぬトラブルが起きることもあるでしょう(それもまた、子どもが成長するにはたいせつな経験なのです)。大人がしんどいことがあるように、子どももしんどいことはあると思います。それでもやっぱり、学校は子どもにとって大切な場であると思うのです。子どもたちは誰もが「友達と仲良く過ごしたい」「できることを増やしたい」と願っているのだと思います。その思いにこたえたくて、学校で働くものはみんな、精一杯頑張っています。

けれども、限られた大人の数で、すべての子どもたちの思いにこたえることは並大抵の努力ではできません。できるだけよいコンディションで登校してもらいたいと思っています。睡眠不足、疲れが取れないまま、あるいは体調が悪いまま頑張ることは、誰も難しいことです。体だけではなく、心の健康も大事です。

年々、集団生活の苦手な子、初めての出来事に不安を感じる子が増えている気がします。お家でこうした子どもの不安に耳を傾けていただければと思います。子どもの声を聴くということは、子どもの言いなりになるということではありません。子どもの気持ちに寄り添って不安を取り除き、できるかもという見通しをもたせることだと思います。子どもも一人の人間、大人がどんなに正しいと思ってもどんなに間違っていると思っても、力づくでは動きません。大人が力で動かそうとすればするほど、子どもは壁を厚くします。そうなったら、子どもは大人に負けないことに必死で、大人の言葉は心に沁みていきません。逆に、子どもが興味をもったり見通しがもてたりした時は、驚くほど力を発揮します。固まってしまったり、反発したりした時、子どもをその気にするカギは、「子どもの心に寄り添う」です。本当は何を願っているか、何に困っているかをつかむことです。好ましくない行動をとった時も頭ごなしに叱るのではなく、「どうしたの?」とまずは聞いてみることです。素直に言葉にできなくても、ほとんどの子は「まずい」「失敗しちゃった」と自分を責めています。その状態で頭ごなしに叱ってしまうと逆効果になってしまいます。少しずつでも話してくれるようになれば、本人に寄り添って一緒に考えることができます。時間のないこともあるでしょうが、できるだけじっくり子どもの気持ちに寄り添ってあげてください。

子育ては迷うことばかり。思い通りにいかないことがたくさんあります。でも、そうしながら子どもたちは日々育っているのです。保護者の方々と学校と連絡を取り合いながら、共に子どもたちの成長を見守っていきたいと思います。そのために少しでも役立てればと思い、「ほっとほっとタイムズ」も発行していきたいと思っています。

※ 運動会の練習もピークを迎えています。4月頑張った疲れも出ています。子どもの頑張りの一番の力は十分な休養と栄養です。おうちのフォロー、よろしく願いいたします!

